

安全の手引き

令和5年1月4日
在レバノン日本国大使館

レバノンには18の宗派が存在し、各宗派に政治権力配分がなされ、バランスの確保に意が用いられています（大統領 マロン派、首相 スンニ派、国会議長 シーア派）。また、各宗教・宗派もそれぞれ一体ではなく、各宗教・宗派内でも複数の党派がそれぞれ政治的立場や利害を巡り確執や同盟関係を複雑にする政治構造となっています。

2019年10月の大規模反政府抗議行動の発生以降、レバノン国内の経済・財政危機が深刻化し、燃料不足、停電、食料品及び医療品等の生活必需品の不足・高騰が生じているところ、国内各地で抗議行動が常態化しています。抗議行動自体は概ね平和的に行われているものの、治安当局との小競り合い等により負傷者が出た事例や発砲で死傷者が出た事例も確認されています。

テロ情勢については、治安当局がテロ容疑者を摘発・逮捕したため、2022年中にテロ事件の発生はありませんでした。しかしながら、治安当局の発表によると、2022年2月にはベイルートでのテロ未遂事件が発生し、また、2022年の7月から10月にかけて治安当局によりテロリスト・セルが逮捕されるなどしており、引き続き注意が必要です。

各種犯罪については、レバノンの経済危機の更なる深刻化により増加傾向にあります。シリアと国境を接する地域を主として、薬物、窃盗、銃撃、暴力事案等の逮捕事案が確認されています。

安全な生活のためには、治安など現地の情勢を自ら把握することが重要となります。外務省は、海外安全情報を発出し、常時最新の治安状況についてインターネットを通じて提供していますので「たびレジ」(www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/)にご登録いただき、渡航先の情報をご確認ください。特に危険情報が発出されている地域での滞在、渡航は、常に「自分の身は自分で守る」との心構えで警戒心を持って行動することが求められています。

レバノン国内で住所が決まりましたらできるだけ早く「在留届」の提出をお願いいたします。また帰国の際には「帰国届」を、住所変更の際には「住所等変更届」をそれぞれ提出のほど、お願いいたします。令和5年4月1日から、FAX等による提出方法は廃止になりますので、原則として、これら各種届出は、オンラインでの提出（外務省 ORRnet 在留届電子届手システム <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>）での提出をお願いいたします。在留届等の提出方法についてご不明な点があれば、以下の連絡先までお問い合わせ下さい。外国に住所又は居所を定めて3ヶ月以上滞在する方は在留届を提出ことが法律で義務付けられています。緊急事態発生時等には提出された在留届をもとに大使館が安否確認や各種支援活動を行いますので、在留届等の提出について、ご協力のほどよろしく申し上げます。

在レバノン日本国大使館(Embassy of Japan)

郵便宛先：P. O. BOX 11-3360

Serail Hill Area、 Army Street、 Zokak El- Blat、 Beirut、 Lebanon

代表電話番号：01-989751～3（内線112）

領事直通番号：01-989856

consular.section@bt.mofa.go.jp (領事班宛て電子メール)

目次

I 防犯の手引き

1. 防犯の心構え
2. 最近の事件・犯罪
3. 防犯のための注意事項
4. 交通事情
5. 緊急連絡先
6. 緊急時のアラビア語

II 緊急事態対処マニュアル

1. 平素の心構え
2. 平素の準備
3. 緊急事態が発生した際の行動

(別添1) 外務省・大使館が提供する治安情勢や安全に関する各種情報

(別添2) 緊急事態に備えてのチェックリスト

I 防犯の手引き

1. 防犯の心構え

普段からの備えを万全にするために、それに伴う労力や経費を惜しまないことが重要です。また、宗教及び信仰心を重んじる文化であり、日本とは異なった価値観や習慣であることを意識した上で行動するよう心掛けてください。情勢は刻一刻と変化します。各種メディア（インターネット、テレビ、ラジオ、新聞）のほか、隣人、現地コミュニティとのネットワークにより情報収集することが重要です。外務省はインターネット上の海外安全ホームページ（<https://www.anzen.mofa.go.jp/>）で情報を提供しています（別添1「外務省・大使館が提供する治安情勢や安全に関する各種情報」参照）。また、在留届を提出された方及び「たびレジ」を登録された方に対して在レバノン日本国大使館から各種の安全情報が発出されます。

2. 最近の事件・犯罪

(1) 抗議デモ

2019年10月の大規模反政府抗議行動の発生以降、レバノン国内の経済・財政危機が深刻化し、燃料不足、停電、食料品及び医療品等の生活必需品の不足・高騰が生じているところ、国内各地で抗議行動が常態化しています。抗議行動自体は概ね平和的に行われているものの、治安当局との小競り合い等により負傷者が出た事例や発砲で死傷者が出た事例も確認されています。2021年9月10日に第3次ミカーティ内閣が発足し、1年以上にわたる政治的空白状態は解消されましたが、2022年11月以降、大統領空位の状態が続いており、依然として国内の政情不安定が続いています。

ベイルート市内においては、主として中央銀行前、裁判所前、ダウNTOWN地区、リングブリッジ（ハムラ・ラスベイルート地区とサイフィ・アシュラフィーエ地区を結ぶ主要幹線道路）及び各省前において抗議行動が行われています。これに伴う道路封鎖により交通渋滞が頻繁に発生します。抗議行動の様子は、空き地又は路上での集会、車列を組んで道路を走行する、路上のゴミ箱を倒す又はタイヤを燃やして道路を封鎖するものが大半ですが、過激化した場合は、投石、乱闘、店舗やATMの破壊といった暴力行為に発展することがあります。また、抗議行動の参加者と治安部隊との間等での衝突による負傷者や、発砲事件等による死者も確認されています。

抗議行動に遭遇した場合は興味本位で決して近づかず、速やかにその場を離れるようにしてください。道路が突発的に閉鎖される可能性もあります。特に空港を利用される方は事前に航空会社の運行情報や道路情報等を確認し、時間にゆとりをもって行動されるようお願いします。

(2) テロ事件

治安当局がテロ容疑者を摘発・逮捕したため、2022年中にテロ事件の発生はありませんでした。しかしながら、治安当局の発表によると、2022年2月にはベイルートでのテロ未遂事件が発生し、また、2022年の7月から10月にかけて治安当局によりテロリスト・セルが逮捕されるなどしており、引き続き注意が必要です。また、2021年8月以降、数十人のレバノン人が、貧困下の北部トリポリから経済的な理由でイラク・レバントのイスラム国（ISIL）に参加するため、イラクに渡航したとされるなど、長引く経済危機が治安面に及ぼす悪影響が懸念されます。治安機関はテロリストの潜入を防ぐべく

万全の監視体制を継続しています。中でも南レバノン県サイダのアイン・ヘルワ難民キャンプは国内で最も危険な地域とされています。同キャンプ内では複数の武装勢力が潜んでおり、大小様々なトラブルにおいて手榴弾やロケット砲等で相手方を攻撃する傾向があります。そのほか、2021年12月にはレバノン南部のブルジュ・シュマーリ難民キャンプにおいて爆発事件（同月10日）及び銃撃事件（同月12日）が連続して発生し、複数の死傷者が発生しました。

また、ISIL等が占拠していた北東部地域（シリアとの国境地帯）では現在も地雷除去作業などが行われており、一般市民の立ち入りが制限されている区域があります。

【テロ対策】

テロリストは虎視眈々と私たちの隙を狙っています。彼らは常に私たちの不意を突こうとしているということを念頭に置いてください。常に最新情報の入手に努めるとともに、可能な限りテロの標的となる可能性がある場所には近づかないなど日頃から安全確保に努めてください。

当地においてテロの標的となる可能性が高いとみられるのは政党の本部や要人の利用する事務所、レバノン国軍及び警察等の治安機関、放送局、特定の外国公館などです。

また、大勢の人々が集まっている場所がテロの標的とされる傾向があります。そのためデモが行われている場所等には可能な限り近づかないようにしてください。また、大型ショッピングセンター、野外での祝祭イベント、オープンカフェやレストラン等不特定多数の人が集まりやすい場所もテロの標的となりやすいと考えられますので注意が必要です。

治安部隊が路上に配置されている場合は、治安部隊の指示、誘導に従って行動して下さい。特に治安部隊が多数展開し活動している場所には、呉々も近づかないようにしてください。

もし、爆発音が聞こえたら直ちにその場又は分厚い壁等近くの物陰に伏せ、その後の状況に応じて退避行動を取ってください。また、テロ攻撃の手口として、集まった群衆を狙って更に大規模な爆発を起こして多数を殺傷するものが確認されています。爆発事件が発生した場合は、混乱や後続の爆発に警戒し、その場又は分厚い壁等近くの物陰に伏せ、状況を見て速やかにその場を離れるようにしてください。くれぐれも興味本位で事件現場に近づかないでください。

(3) 誘拐事件

レバノンにおける誘拐事件はレバノン人及びシリア人の富裕層をターゲットにした身代金目的のものがほとんどです。しかし、過去には外国人を対象にした犯行も確認されています。レバノンの経済危機の更なる深刻化により、レバノン人を対象にした誘拐事件等についても増加傾向にあります。犯行グループは、対象者の行動を事前に観察した上で犯行に及びます。対象者が車で移動しているところを人通りの少ない路上で襲撃、銃器で脅迫し連れ去るといった手口のほか、歩行中の対象者の脇に車両で接近して無理矢理車内に押し込んで連れ去るといった手口が確認されています。

【誘拐事件対策】

通勤・通学の時間や経路を変えるなど一定の行動パターンを繰り返さないよう心掛けてください。華美な服装及び高価な装飾品の着用を控えてできるだけ目立たないようにする、多額の現金は持ち歩かないようにし、むやみに人前で財布を取り出さないといった着意も大切です。特に、両替後やATMで

の現金引き出し後の周囲の動向に注意を払ってください。また、夜間における人通りの少ない場所での単独通行はできるだけ控えてください。

(4) 銃撃・砲撃、地域的武力衝突

2021年10月14日、ベイルート市南東部の Tayouneh（タイユーネ）地区において、ベイルート港爆発事案の捜査をめぐる抗議行動者（イスラム教シーア派支持者）への銃撃がきっかけとなり、市街地での大規模な銃撃戦へと発展し市民7名が死亡、30名以上が負傷する事件が発生しました。そのほか、日中時間帯のベイルート市内を含む国内各地にて、抗議行動や個人間トラブルに起因する銃器使用事案が複数発生しています。国内では銃器の入手が比較的容易であり、銃器のまん延による潜在的な危険が存在するという状況認識の下、平素より行動にはご注意ください、万が一周囲でトラブル等が発生した際は直ちにその場又は分厚い壁等近くの物陰に伏せ、状況に応じて退避行動をとる等、安全の確保を最優先に実施いただくようお願いいたします。

過去の内戦の影響により国内では銃器の入手が容易であり、集団同士の抗争や犯罪組織と治安機関との衝突が死傷者を伴う銃撃戦へと発展するケース及び薬物組織のファミリー間の因縁による銃撃事件等も確認されています。また祝砲と称して実弾を空中に発砲する習慣があり、例年この発砲により死傷者が発生しています。学校の修了試験の結果発表の時期にあたる夏季（7~8月）や大晦日は特に注意が必要です。

レバノン各地に点在するパレスチナ難民キャンプ、シリア人非公式居住区では宗派・武装集団間の対立抗争が散発的に発生するほか、その他の地域でもレバノン国軍や警察等の治安機関と武装グループ間との銃撃戦が発生した事例もあります。そのような事態に発展した場合には、治安機関によって付近の道路が封鎖されることがあります。

イスラエルに面するレバノン南部（リタニ川）以南の一部地域はレバノン国軍及び国連軍が展開し、立ち入り制限区域を設定するなど高レベルの警戒を行っている場所もあります。また国境付近を中心とした一部の地域では不発弾や地雷が残存しており、現在も除去作業が行われています。

【銃撃・砲撃、地域的武力衝突対策】

渡航情報（危険情報）により「レベル3：渡航はやめてください。（渡航中止勧告）」以上に指定している地域には、どのような目的であれ立ち入らないでください。また、周囲で爆発音や銃声等がした場合には直ちにその場又は分厚い壁等近くの物陰に伏せてください。その後状況に応じてその場を離れるか隠れるといった退避行動をとるよう心掛けてください。

3. 防犯のための注意事項

(1) 住居の選択

住居を選択する際は、警備員及び門番の有無、監視カメラや施錠扉などの防犯措置の有無を確認してください。低層階に入居する場合は、窓やバルコニーに鉄柵が設置されている住居を選択するよう推奨します。また屋上やベランダをつたって施錠をしていない窓から侵入する手口が多く見られますので、自宅を不在にする時や就寝の際には、必ず窓の施錠を御確認ください。

(2) ホテル等の宿泊施設の選択

2022年10月、ベイルート市内のホテルにて宿泊していた邦人が、何者かに扉の鍵を解錠され、部屋に侵入されるといった事案が発生いたしました。幸いにも怪我や盗難被害はありませんでしたが、当地への短期滞在等でホテル等に宿泊され場合は、事前に値段、立地条件、宿泊施設の状況及び評価等を事前によく確認され、総合的に安全と判断できる宿泊施設に宿泊されることを推奨いたします。レバノン国内の経済・財政危機の深刻化に伴い、外国人をターゲットにした類似の事案が発生する可能性も考えられますので、宿泊料の安さのみで宿泊施設を選択せず、このような潜在的な危険性があることを認識され、安全性の確保を第一に優先頂きますようお願いいたします。

(3) 外出時の注意

外出する際には、政党事務所や要人の住宅周辺、治安機関が活動している地域周辺の通過は極力避けてください。また、次のような犯罪が考えられますのでご注意ください。

(ア) 強盗

強盗事件は夜間に人気の少ない場所で発生する傾向にあります。可能な限り明るく人目につきやすい道を選んでいただくとともに、万一、強盗などのトラブルに巻き込まれた場合には、レバノンでは、犯人が拳銃等の凶器を持っていることを前提にして、絶対に抵抗しないでください。万が一強盗被害に遭われた場合は速やかに最寄りの警察署（国家警察軍：I S F）へ通報し被害届を提出いただくと共に、日本国大使館にもご一報いただきますようお願いいたします。

(イ) スリ、ひったくり

スリの大部分は、雑踏や相乗りタクシー（セルビス）の中で多く発生しています。またベイルート市内などでは女性を狙ったひったくり事件も確認されています。多額の現金を引き出した後は速やかに帰宅するなど、大金や貴重品の携行はできるだけ避けてください。また、バイクを利用したひったくりの被害に遭った際に腕を引っ張られて思わぬ大怪我を負うことも考えられます。鞆は車道と反対側の手で持つよう心掛けてください。2020年には日本人1名が日中にベイルート郊外を歩いて移動していたところ、商人を装い接近してきた現地に貴重品をひったくられる被害に遭いました。万が一、スリ、ひったくり等の被害に遭われた際は、大怪我を負う可能性がありますので、絶対に抵抗しないでください。自ら解決しようとせず、上記同様、速やかに最寄りの警察署（国家警察軍：I S F）へ通報し被害届を提出いただくと共に、日本国大使館にもご一報いただきますようお願いいたします。

なお、2021年には、日中にベイルート市内にて乗り合いバスで移動していた日本人1名がバス降車後に車内に鞆を置き忘れたことに気付き、急いで現場に戻り状況を確認、バス会社に相談するも発見に至りませんでした。レバノンでは日本と異なり遺失物の取扱いや慣習が異なることから、外出の際は所持品や貴重品を常に自分の視界の範囲内に置くなど、管理の注意・徹底をお願いいたします。

4. 交通事情

国内に鉄道はなく、公共交通機関の整備が不十分であり、多くの人々が自家用車を利用していますが、信号、標識標示の未整備や故障が目立ちます。そのため通勤及び通学の時間帯は激しい交通渋滞が発生

するとともに、運転中危険を感じる頻度は高く、日本の道路交通状況と比べて極めて劣悪です。また、雨期には道路の冠水等が路面状況の悪化や渋滞発生させます。

更に飲酒運転、信号無視、原付バイクの一方通行の逆走、運転中の携帯電話の使用、路上駐車が横行しています。

治安当局の検問所では必ず一旦停止または徐行してください。治安当局の指示に従わず検問所を通り過ぎたために射殺された例もあります。また、検問などで提示を求められることも考えられますので、運転の際には運転免許証、車両登録証のほか、旅券、滞在許可証などの身分証明書の携行を強く推奨します。

個人タクシーの利用には十分な注意が必要です。深夜に個人タクシーを利用していた邦人旅行者がドライバーとの金銭トラブルを懸念して降車して歩いていたところを強盗に襲われるという事件が発生しました。

夜間にタクシーを利用する際は信頼できる大手のタクシー会社に連絡して運転手の身元がはっきりしたタクシーを手配するように努めてください。大手の配車アプリも油断はできません。2017年12月には個人タクシーの運転手による殺人事件が発生し、英国女性外交官が犠牲となりました。被害者は深夜にタクシー配車サービス用のアプリケーション（UBER）で手配した個人タクシーに1人で乗車していたところ被害に遭いました。このことから、夜間は可能な限り複数人で行動するよう心掛けてください。

【交通事故防止対策】

レバノンでは、基本的な交通ルールが守られていない上に運転が乱暴です。交通事故を避けるために次のようなことに気をつけてください。

- (1) タクシーやバス等は、乗客の乗降に際して路肩に車を寄せることなく突然停車することがあります。また、多くの車両が方向指示器を使用することなく突然進路や車線を変更します。周囲の状況に注意を払い、交差点では相手車両とアイコンタクトを十分にとり、平素の運転では十分な車間距離を取るよう心掛けてください。
- (2) 車両による一方通行の逆走や二輪車による歩道上の走行も日常茶飯事ですので十分注意してください。夜間に無灯火で走行する車両や信号を無視する車両（特に二輪車及び右折する車両）にも気をつけてください。特に二輪車は強引なすり抜け、逆走、並走、無灯火走行等きわめて乱暴な運転が目立ちますので、十分注意してください。
- (3) 交通量の多い幹線道路など、横断歩道がない場所でも横断する歩行者がおりますので、十分注意してください。
- (4) 当地での運転に不慣れな方は、可能限りタクシー会社や運転手付きのレンタカーを利用するよう推奨します。ご自身で運転される際は事故に遭われた際に備えて事前に保険に加入しておき、その契約保険会社の連絡先を常備してください。

5. 緊急連絡先

- (1) 在レバノン日本国大使館

代表電話番号：01-989751～3

領事直通：01-989856/01-989855

領事携帯：03-366018/03-345977

領事緊急：03-362540

FAX番号：01-989754

(2) 警察 (Internal Security Forces)

緊急：112

アシュラフィーエ警察署 (東ベイルート)：01-328086/7

ジュマイゼ警察署 (東ベイルート)：01-443115

ラス・ベイルート警察署 (西ベイルート)：01-740942

ラウシェ警察署 (西ベイルート)：01-771962

バアブダ警察署 (バアブダ地区)：05-921740、05-768333

(3) 救急車

レバノン赤十字社：140

P.T.S Ambulance (民営)：01-388(588、688、788) (有料)、03-844446

(4) 病院

クレメンソー・メディカルセンター (ジュンブラート地区)：01-372888

ホテル・デュー病院 (アシュラフィーエ地区)：01-615300

ベイルート・アメリカン大学病院 (ハムラ地区)：01-350000

トラード病院 (カンタリ地区)：01-369494/369495

(5) その他

消防：175

ベイルート国際空港インフォメーション：01-628000/150

7. 緊急時のアラビア語

(1) 「泥棒！」 = ハラーミー!

(2) 「警察」 = ポリイス/シュルタ

(3) 「助けて！」 = サアアドゥーニー!

(4) 「病院」 = ムスタシュファ

(5) 「医者」 = ドクトール

(6) 「日本大使館」 = アッサファーラ ヤバニーエ

(7) 「やめて！」 = ワッイフ!

(8) 「日本大使館に電話して！」 = イッタセル サファーラ ヤバニーエ!

テレフィン サファーラ ヤバニーエ!

II 緊急事態対処マニュアル

1. 平素の心構え

(1) 緊急事態はいつ発生するか分かりません。日頃から新聞やテレビ、インターネット等を通じて最新の治安情報を入手するよう心掛けてください。緊急事態に備え、携行品等を準備しておくとともに、ご家族やお勤め先で緊急時の連絡方法や対応の仕方について予め話し合っておくことが重要です。また、常にご家族に対してご自身の所在を連絡するよう心がけてください。

(2) 緊急事態が発生する可能性が高いと判断された場合には、早めに国外や国内の安全な場所に退避・避難してください。緊急事態が発生した場合には、お互いに助け合って対処することが重要です。平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に左右されないようご注意ください。

2. 平素の準備

(1) 一時避難場所・緊急避難場所の設定・確認

勤務先や通勤途上、自宅等で緊急事態に巻き込まれる場合を想定し、それぞれの場所での避難場所を設定し、その場所や経路を予めご家族と確認しておいてください。

(2) 携行品や備蓄用物資の準備

緊急事態の発生に備え、チェックリスト（別添2参照）も参考に、携行品や備蓄物資の準備を推奨します。

(ア) パスポート、現金等

パスポート、滞在許可証等の身分証明書、現金等、退避・避難する際に最低限必要なものは、直ちに持ち出せるようまとめて準備しておくことをお勧めします。パスポート、滞在許可証等の身分証明書は、出国のために不可欠です。現金は、航空券購入用資金や当座の生活用を考えレバノン・ポンドと小額紙幣を含む外貨（米ドル等）の用意を推奨します。

(イ) その他携行品

緊急事態が発生し、急に緊急避難場所へ移動したり、国外へ退避する場合、避難先の受け入れ体制が十分整っていないことがあります。そのため避難や退避の際には、3日程度を過ごすことができるだけの携行品（非常食、衛生用品、常用している医薬品等）を持参することを推奨します。これらの携行品は、いざという場合に直ちに持ち出せるようにまとめて保管してください。

(ウ) 備蓄

移動が困難な場合や事態の早期収拾が見込まれる場合等、慌てて自宅から移動するよりも暫く自宅で待機の方が安全であると考えられるケースもあります。そのため、一定期間外出しなくても生活ができるよう平素から非常用食料や飲料水、医薬品、燃料等を一定量（10日分程度）備蓄しておくことを推奨します。

3. 緊急事態が発生した際の行動

(1) 情勢の把握

(ア) 国内外のテレビやラジオ、インターネットなどから最新情報を収集してください。また、隣人や周囲の様子にも注意を払ってください。

(イ) 外務省・大使館は、治安状況等に応じて「危険情報」等を発表しますので外務省の海外安全ホームページ（<https://www.anzen.mofa.go.jp/>）で確認してください。状況に応じて日本のご家族等にも電話連絡されることを推奨します。

(ウ) 緊急事態等の発生により、電話が不通になるような場合には、NHK WORLD JAPAN の短波放送により大使館からのお知らせ等を発表することがあります。短波放送（日本語）の放送時間及び周波数は以下のとおりです（年2回、春と秋に周波数が変更となります）。

中東・北アフリカ地域（2022.11.6～2023.3.26）

| 放送時間 | | | 周波数（KHz） |
|-------------|-------------|-------------|----------|
| UTC | JST | EET | |
| 03:00～05:00 | 12:00～14:00 | 05:00～07:00 | 7265 |
| 17:00～19:00 | 02:00～04:00 | 19:00～21:00 | 6000 |
| 19:00～21:00 | 04:00～06:00 | 21:00～23:00 | 11610 |

※NHK WORLD JAPAN の以下のサイトにて放送時間及び周波数表が発表されています。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/radio/howto/>

(2) 避難・退避のタイミング

緊急事態の危険が高まった際には、「危険情報」等を参考にして民航機が利用できる間に避難・退避してください。空港や道路が突然閉鎖されることも想定されます。可及的速やかに避難・退避されることを強く推奨します。

状況により、大使館から自宅待機の勧告や避難・退避を希望される方に向けて集合場所等に関する連絡を入れることがあります。また、退避支援のためにチャーター船等を使用する場合があります。なお、その場合、利用に際しては所要の料金を御負担いただくこととなりますので予めご了承ください。

(3) 空港が閉鎖された場合の対応策

空港が閉鎖された場合などには、次のいずれかの対応策を検討してください。ご自身で独自に手配した手段や勤務先等が手配した手段で周辺国等へ退避される場合には、事前に大使館へご連絡いただくようお願いします。

(ア) 自宅待機

外に出るのは危険であると判断される場合には、しばらくの間自宅に待機してください。

(イ) レバノン国内の安全と考えられる場所への一時避難

自宅及びその付近に危険が及びそうな場合、移動が可能であれば速やかにその場を離れ、宿泊施設や知人宅など、安全と思われる場所に移って一時避難してください。

(ウ) 国外への退避

大使館が退避手段を手配できる場合、準備が整い次第、集合場所及び時間を連絡します。その際には次の点にご留意ください。

- ・ ご自身で交通手段を確保し集合場所までお越しくくださるようお願いいたします。
- ・ パスポート、滞在許可証等の身分証明書、貴重品や携行品（上記Ⅱ． 2．（2）（イ）及び（ロ））は必ず携行してください。

（4）国外への退避（帰国）後の連絡

国外に退避された際には、ご家族等へ連絡された後、外務省海外邦人安全課（外務省代表：0081-3-3580-3311（内線）2306）や現地の日本大使館へも連絡していただくようお願いいたします。（了）

外務省・大使館が提供する治安情勢や安全に関する各種情報
(海外安全ホームページ (<https://www.anzen.mofa.go.jp/>))

1. 広域情報

複数の国や地域にまたがる広い範囲で注意が必要な情報をお知らせするものです。

2. 危険情報

渡航・滞在にあたって特に注意が必要な国・地域の現地情勢や安全対策の目安を4つのカテゴリーに分けてお知らせするものです。

● 「レベル1：十分注意してください」

その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

● 「レベル2：不要不急の渡航は止めてください」

その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策を取ってください。

● 「レベル3：渡航は止めてください（渡航中止勧告）」

その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。（場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。）

● 「レベル4：退避してください。渡航は止めてください（退避勧告）」

その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながらどのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

3. スポット情報

限定された期間、場所、事項について安全対策の観点から速報的に発表するものです。

4. 安全対策基礎データ

防犯・トラブル回避に役立つ各国・地域の基礎情報です。各地の犯罪状況やよく見られる犯罪手口、防犯対策のほか、出入国に当たっての注意事項、風俗・習慣の特色などを知らせするものです。

緊急事態に備えてのチェックリスト

1. 自動車の整備

自動車をお持ちの方は、常時整備、点検するようお勧めします。

- ガソリンの補充
- 懐中電灯や地図等の備え置き

2. 貴重品の確認

貴重品の保管方法や場所等については、日頃から家族全員が承知しておくようにしましょう。

- パスポート
(有効期間満了日まで6か月以上であることを確認してください。最終ページ「所持人記載欄」には必要事項を記載してください。)
- 滞在許可証等レバノン政府が発行した身分証明書
- 現金 (レバノンポンド、日本円、米ドル)
- クレジットカード、キャッシュカード

3. 退避・避難用携行品の準備

避難場所へ移動する際には、前述の貴重品に加え、次に挙げる携行品をすぐに持ち出せるように準備しておくことをお勧めします。但し、軍用の航空機及び船舶を利用することとなった場合は持ち込める手荷物が制限される可能性があります。

また、旅券及びクレジットカードの情報のほか、携帯電話の電源が切れた場合に備えてご家族や留守宅等の必要な連絡先をメモ帳等に控えておくといでしょう。

- 貴重品 (2項参照)
- 携帯電話及び充電器 (電池式の携帯用充電器)
- 非常用食糧 (缶詰、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーター (3日分程度))
- 水筒
- リュックサック、雨衣
- 衣類・着替え (吸湿性・耐久性に富む素材を使った長袖・長ズボンが賢明。)
- 履き物 (履きやすく、靴底の厚い頑丈なもの)
- 洗面用具 (タオル、歯磨きセット、石鹸等)
- 医薬品 (家族用常備薬の他、常用薬、応急用医薬品)
- ラジオ (電池仕様のもの)
- メモ帳 (旅券及びカード情報、連絡先を事前に記しておく) 及びペン
- その他
懐中電灯、予備バッテリー (電池)、ライター、蝋燭、マッチ、手袋等の防寒具